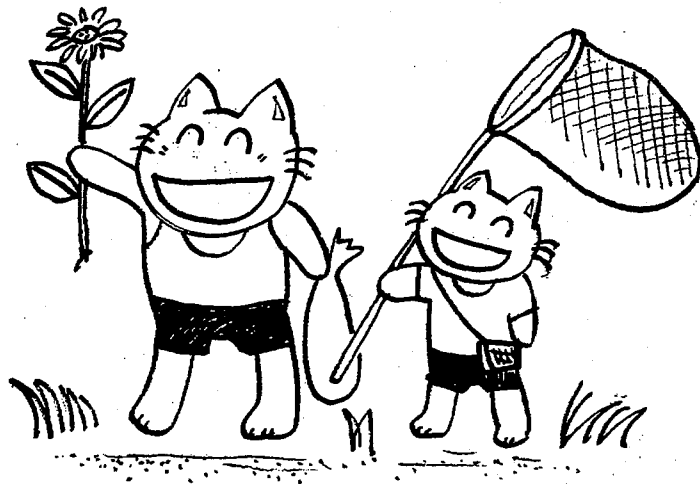


改訂版

標本のつくり方

貝類貝殻標本編



市立市川自然博物館

はじめに

この冊子は、自然博物館で実際に調査や研究のために作成する動植物の標本の作り方の基本をご紹介しますものです。

きちんと作成され、記録を記載された標本は、地域の自然の記録として貴重な資料になります。

標本を作製するためには、採集してから、完成するまでに何日かの時間が必要です。

特に植物や海藻の押し葉標本や昆虫の標本は、きちんとした手順と処理、毎日の手入れを行って、ようやく完成します。

こうしてしっかりと作成された標本は、長期間の保存にも耐え、地域の自然の記録として活用することができます。

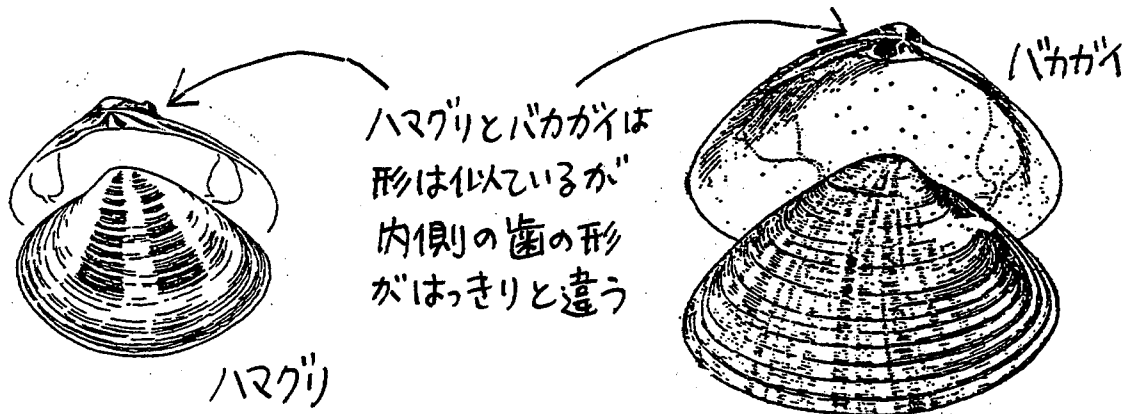
標本完成までの目安

貝類貝殻標本 3日間ぐらい

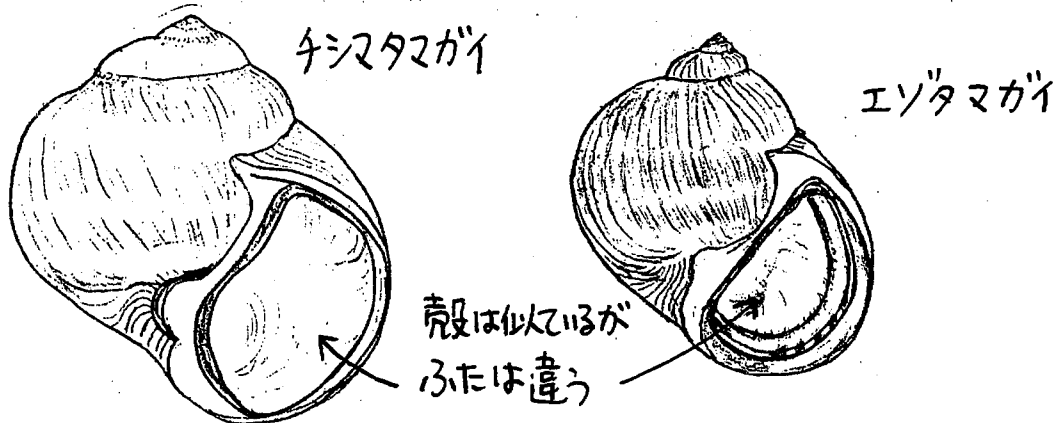


1. 最初に注意すること

- ①. なるべく生きている貝を採集して標本を作りましょう。死んだ貝の殻でも標本になりますが、色があせたり、欠けたりしたのでは貝の本当の姿がわかりにくいからです。
- ②. 貝殻を箱に接着剤ではりつけないようにしましょう。貝殻の観察をするときには外側も内側もよく見なければなりません。接着剤ではりつけてしまうと、詳しく見ることができなくなってしまいます。



- ③. ふたのある巻貝は、ふたもつけて保存しましょう。殻が似ていてもふたが違うとことがあります。



- ④. 地図やノートを持ち、観察したことや考えたことを記録しましょう。

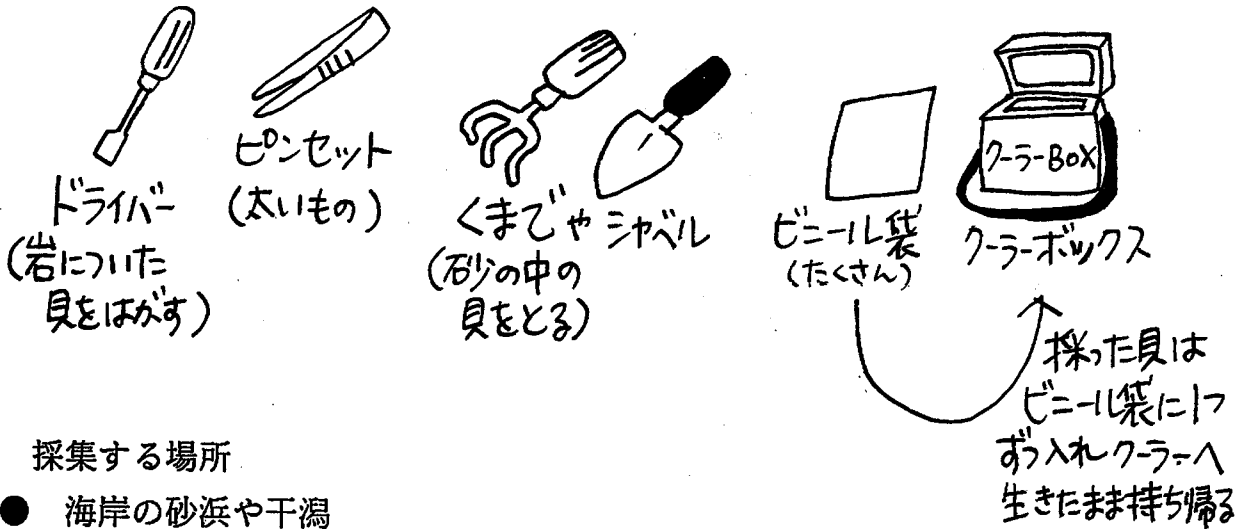
2. 採集

① 採集のときの服装

採集する場所に応じて服装も工夫しましょう。大事なことはけがをしないようにすることと、身軽で活動しやすいことです。

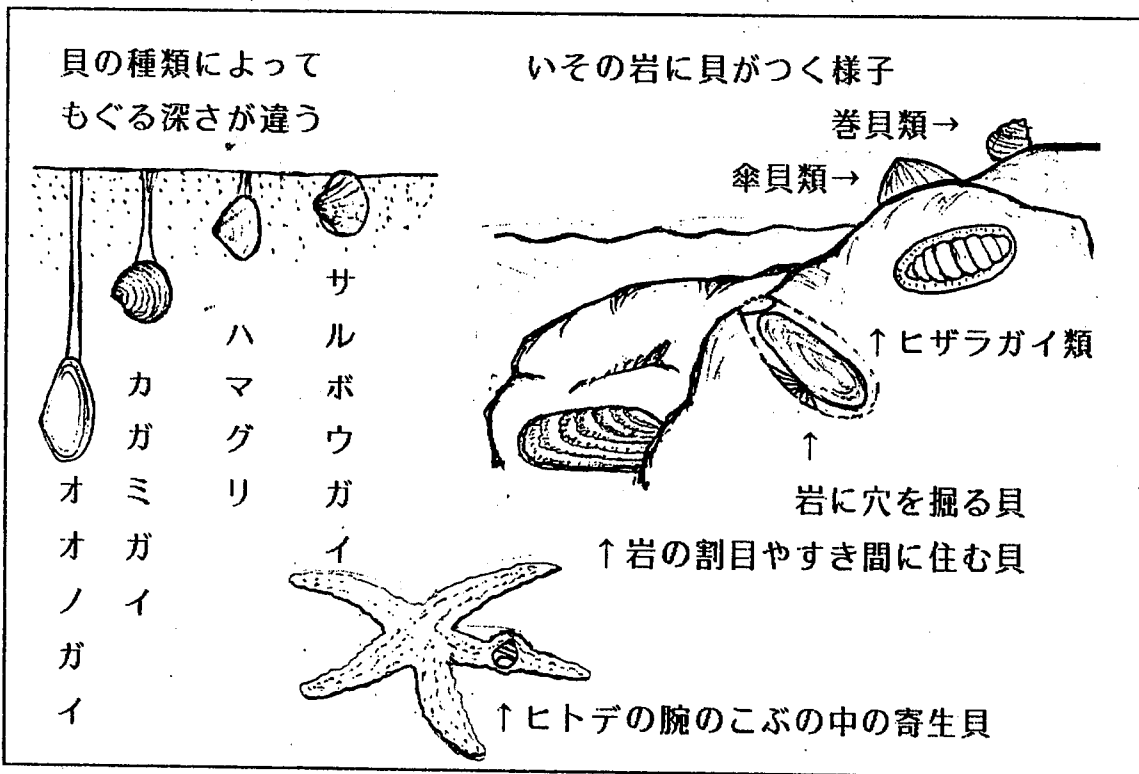
- 海では、はだしはけがをしやすいため、磯足袋や底のすべりにくい古い運動靴をはく。必ず帽子をかぶる。
- 山や森林では、長袖長ズボンに帽子が必要。靴も山歩き用の靴がよい。

② 採集の道具



③ 採集する場所

- 海岸の砂浜や干潟
砂や泥の上をはっている貝もいれば、中にもぐっている貝もいる。
- いその岩や潮だまり
岩の表面や割れ目、海底の砂の中や石の裏側にもいる。
海藻やヒトデなど他の動植物についている貝もある。
- 漁港など
テングサ干し場、網干し場、漁港の屑捨て場などを探すと、深い海の貝を採集できることがある。
- 森林や石灰山・鍾乳洞など
陸に住む貝は、植物の葉や朽木についていたり、石灰質の所に多い。



3. つくり方

◎用意するもの

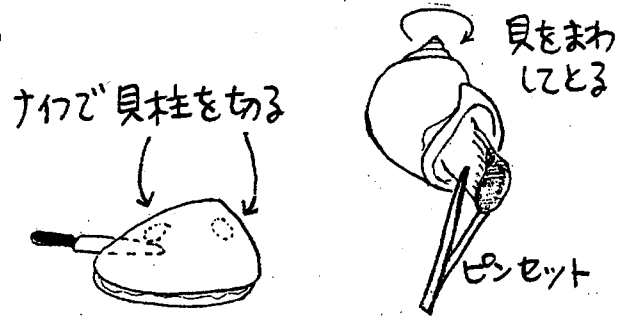


① 肉抜き

標本にするため熱いお湯につけて肉を抜く。



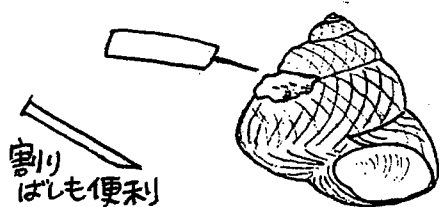
(1) 殻の薄い貝では60~70℃に1~2分、厚い貝なら100℃に近い温度で3~5分つける。少し口が開けばよい。



(2) ナイフやピンセットなどで肉を取る。

② 清掃・乾燥

肉を抜いたら、よく水洗いして乾かす。



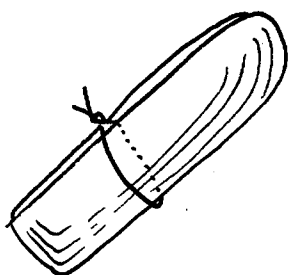
(1) 殻に付いた付着物はキリ、メウチ、ブラシなどを使って清掃する。



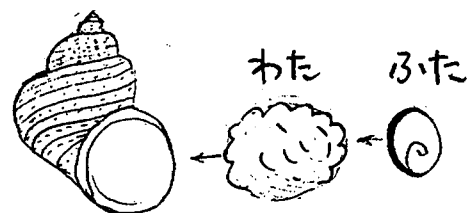
(2) 巻貝で肉が抜ききれないことがある。そのときは、よく乾燥させてから中に防虫剤を入れて綿を詰めておく。

③ 仕上げ

●二枚貝は、二つの殻を合わせ糸で止める。



●ふたのある巻貝では綿を詰め、ふたをつけておく。



4. 整理

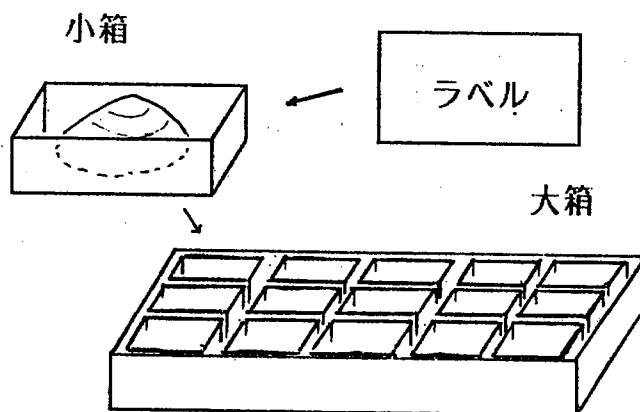
① ラベル

植物と同じようにラベルをつける。

*参考書 原色日本貝類図鑑 (保育社) 学研生物図鑑貝Ⅰ、貝Ⅱ (学研)

② 保存

- 一種ずつ小箱に入れ、ラベルを入れ、大きな箱などに整理しておく。
- 小箱は市販品もあるが、自作もでき、空き箱利用もよい。
- ポリエチレン袋も使える。このときはラベルを袋の中に入れる。
- 防虫やかび止めの薬品を入れ、冷暗所に保存する。



改訂版 標本のつくり方

発行 平成6年6月17日

第3刷発行 平成14年7月7日

編集 市立市川自然博物館